

令和4年度化学物質安全対策（毒性発現予測システムの活用促進に向けた課題等の調査）について

・ AI-SHIPS につきましては本システムを活用することで、事業者等は化学物質の設計段階等で簡便にその毒性を判断できることから、効率的な化学物質開発ツールになり得るものと評価されています。このため、今後は事業者等への活用促進を図ることが有効であるとして本システムの活用促進に向け、国は、その開発事業の中間評価（令和2年3月産業構造審議会産業技術環境部会研究開発・イノベーション小委員会評価ワーキンググループ）において、開発事業終了後に幅広い分野での利活用に向けた取組みを検討することとしています。

・ この中間評価を受けて、経済産業省では、幅広い分野への本システムの活用促進を図る上で必要となる課題等を調査・分析を実施することとなり、国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学（NASIT）ならびにみずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社が調査事業として本年度、受注しております。（プロジェクトリーダー：奈良先端科学技術大学院大学データ駆動型サイエンス創造センターセンター長 特任教授 東京大学 名誉教授 船津 公人）

・ 当該調査事業におきましては、AI-SHIPS の活用促進に向けた調査として、本システムの活用促進に向けた課題等を調査・分析して、本システムを普及するために講じるべき対応策およびアクションプランを検討することとなっております。課題等の調査・分析に必要な情報の収集にあたり、化学産業を始め幅広い分野の事業者等に本システムを活用・評価してもらう必要があるため、各関連団体等を通じて本システムを広報するとともに、

(1) 将来に向けた本システムの活用を希望する事業者等に、本システムを収納したDVDを一定期間貸与し（インハウス式）、システムの操作性や物質に応じた適用性等についての評価結果をフィードバックしてもらうこと、(2) 本システムの活用を検討している事業者等が事前にシステムの内容を確認するために、試験的に操作できる環境を準備するとともに、システムの実体験あるいはインストラクションデモ等の実施を計画しています。